

ハーモニー

Harmony

第53号 2010年9月9日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第18回学術集会（大阪）の企画紹介・・・	1	「私の実践と研究」リレー・レポート⑦・・・	6
第18回学術集会プログラム・・・・・・・・・・	2	2010年度総会告示・・・・・・・・・・	7
学会活動委員会企画のご案内		「学会の活動に関する調査」の結果に	
その1：プレコンGRES・・・・・・・・・・	5	ついて・・・・・・・・・・	7
その2：学会活動報告・・・・・・・・・・	5	投稿原稿募集・・・・・・・・・・	8
私の県の「ここが特色」⑨・・・・・・・・・・	5	事務局より・編集後記・・・・・・・・・・	8

第18回学術集会（大阪）の企画紹介

学会長 楠本久美子（四天王寺大学）

今年の夏は大変な猛暑でしたが、会員の皆様方におかれましては、季節にかかわらず研究に職務に励まれていることと思います。

大阪は例年暑い地域として知られていますが、気温だけでなく、人情にも篤いと自負しております。人情の篤さは養護教諭にとって欠かせないもので、子どもへの対応や支援の基本であり、人と人との繋がり、思いやりの連鎖を作っていきます。さらに、養護教諭の深い専門知識と確かな技術が子どもの健康の支えとなります。

それらを踏まえて、第18回学術集会のメインテーマを「今、改めて養護教諭の教育を問う」としました。皆様方と共に、養成機関の教育、行政の研修、養護教諭自身の研鑽について考えてまいりたいと思います。学術集会初日（10月9日）は、「これからの養護教諭養成教育を考える」と題しまして、学会長講演をいたします。教育学系、看護学系、学際系の異なる養成機関が共通して取り組むべき課題について中央教育審議会答申を参考にしながら解説したいと思います。次に、教育講演、シンポジウム、ワークショップと続きます。

教育講演は、「今 学校保健に求められる健康教育」と題しまして、奈良県医師会理事を務められる岡本和美氏が、最近の若者の特徴的な健康実態から今後望まれる健康教育の重要性についてご講演くださいます。

シンポジウムでは、大阪府学校保健会養護教諭部会

会長の日垣慶子氏、三重県総合教育センター主幹兼研修主事の南川恵子氏、日本養護教諭養成大学協議会会長の高橋喬代氏のそれぞれのご専門の立場から「今、求められる養護教諭の教育」について熱い思いを語っていただきます。

ワークショップでは、最近の子どもたちの深刻な健康実態から「アレルギーのある子どもへの対応」「十代の子どもを取り巻く生と性」の2セッションを設けましたので、参加者の皆様は希望される場で実践を深めていただきます。

ワークショップ後、会員の皆様方の交流の場になることを願って懇親会を開きます。ぜひご参加くださいますように。

二日目（10月10日）は、特別講演、ランチョンセミナーを挟んで、一般演題の発表があります。

特別講演は、「仏教と教育」と題しまして、四天王寺第111世管長、奥田聖應猊下が釈尊の時代、聖徳太子の頃、世界最古の大学における「仏教教育」についてご講演されます。

お昼は、企業の協賛によるランチョンセミナーを開きます。

一般演題は、午前と午後に4会場に分かれて行いますが、口演は28演題、口演示説（ポスターセッション）が16演題の申し込みをいただきました。ありがとうございました。

ランチョンセミナー後、総会と学会主催の「学会活動委員会報告」「学会助成研究」の発表がありますので、最後まで活発な質疑応答を期待いたします。

日本養護教諭教育学会 第18回学術集会プログラム

メインテーマ：「今、改めて養護教諭の教育を問う」

期 日：平成22年10月9日（土）12時30分～10月10日（日）16時

会 場：大阪府教育会館たかつガーデン 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11

10月9日（土） 9：40～ 受付

◇プレコンgres（10：00～11：30）第1会場…………… 学会活動委員会
「養護教諭の専門領域に関する用語についての検討」

◇学会長基調講演（12：30～13：00）第1会場…………… 座長 中桐佐智子（藍野大学）
「これからの養護教諭養成教育を考える」 楠本久美子（四天王寺大学）

◇教育講演（13：10～14：20）第1会場…………… 座長 徳山美智子（藍野大学）
「今 学校保健に求められる健康教育」 岡本和美（奈良県医師会、元奈良県教育委員長）

◇シンポジウム（14：30～16：00）第1会場

今、求められる養護教諭の教育
「専門職としての不易と流行－養成教育の立場から」
「現職養護教諭研修から思うこと」
「組織としての視点から、養護教諭の教育を考える」

コーディネーター 北口和美（大阪教育大学）
高橋香代（日本養護教諭養成大学協議会会長）
南川恵子（三重県総合教育センター主幹兼研修主事）
日垣慶子（大阪府学校保健会養護教諭部会長）

◇ワークショップ（16：10～17：50）第2、3会場

①WS1「アレルギーのある子どもへの対応」第2会場
コーディネーター：辻 立世（兵庫大学）毛受矩子（四天王寺大学）
講演・指導助言：森岡芳雄（東神戸病院小児科） 協力：マイラン製薬株式会社

②WS2「十代の子どもを取り巻く生と性」第3会場
コーディネーター：津川絢子（四天王寺大学）
講演・指導助言：加藤治子（性暴力救援センター・大阪 SACHIKO 代表、阪南中央病院産婦人科）

10月10日（日） 9：00～ 受付

◇一般演題（9：20～10：50）第1会場

口演1（9：20～10：05）…………… 座長 岡田加奈子（千葉大学）
I-1 健康相談活動における心理・社会的アセスメントを重視した支援の有効性に関する一考察
○池川典子（大阪府立泉北高等支援学校）他

I-2 「健康相談活動演習」における学習の成果と課題 ○今野洋子（北翔大学）

I-3 スクールカウンセラーへの養護教諭の期待－校種別の比較から ○久保昌子（京都女子大学大学院）

口演2（10：05～10：50）…………… 座長 岡本陽子（甲南女子大学）

I-4 養護教諭からみた高校生のこころの健康と学習環境に関する一考察
○三並めぐる（愛媛大学附属高等学校）他

I-5 養護教諭のストレスの実態に関する研究 ○酒井 瞳（福井県済生会病院）他

I-6 養護教諭の精神的健康度とストレス要因に関する研究（第1報）－経験年数の比較から－
○上原美子（筑波大学大学院人間総合科学研究科）他

◇一般演題（9：20～10：50）第2会場

- 口演3 (9:20~10:05) 座長 出井梨枝 (元園田学園女子大学)
- II-1 応急処置判断能力を仲間と共に培う探究型保健学習 ○竹内雅子 (福井大学教育地域科学部附属中学校)
- II-2 養護教諭養成課程学生の養護実践場面に関する討論授業の効果
- ケースメソッド授業を通して - ○斉藤ふくみ (茨城大学教育学部)
- II-3 養護教諭へ注がれるまなざし
- 学校管理職へのインタビュー調査結果から - ○安林奈緒美 (名古屋大学大学院)
- 口演4 (10:05~10:50) 座長 大西雅美 (大阪府教育委員会)
- II-4 養護教諭と生徒指導部の連携における現状と課題 第1報
- いじめ、暴力行為、性暴力の被害生徒支援を中心に - ○鈴木秀子 (大阪府立北淀高等学校) 他
- II-5 養護教諭と生徒指導部の連携における現状と課題 第2報
- いじめ、暴力行為、性暴力の加害生徒支援を中心に - ○菊池美奈子 (大阪府立園芸高等学校) 他
- II-6 ネパールの子どもたちと「歯と口の健康実態」の一考察 ○藤岡光子 (三重県三里小学校) 他

◇一般演題 (9:20~10:50) 第3会場

- 口演5 (9:20~10:05) 座長 三村由香里 (岡山大学)
- III-1 女子大学生の月経の記録や基礎体温の測定による
自身の性機能状態に関する意識の変化 ○吉田 夏 (弘前大学大学院教育学研究科) 他
- III-2 女子大学生の排卵の自覚とその知識 - 基礎体温測定データとの関連から
○葛西敦子 (弘前大学教育学部) 他
- III-3 高校生の自己の排卵に関する認識 ○千日由美子 (川崎医療福祉大学医療福祉学研究科) 他
- 口演6 (10:05~10:50) 座長 永田智恵子 (静岡市立賤機中学校)
- III-4 保健室データを活用した初経発来時期の予測 ~身長・体重の測定値を中心に~
○林 真弓 (川崎医療福祉大学医療福祉学研究科) 他
- III-5 初経初来時の予測カードを用いた初経指導の実践 ○鈴木 薫 (前岡山大学教育学部附属小学校) 他
- III-6 性教育の集団指導における効果の検討 (第1報) ○鹿間久美子 (群馬医療福祉大学) 他

◇一般演題 (9:20~10:45) 第4会場 (ポスターセッション)

- 口演示説1 (9:20~10:00) 座長 桜田 淳 (埼玉県立大学)
- P-1 中学生の家庭での会話およびQOL・生活実態との関連 ○本田優子 (熊本大学) 他
- P-2 養護教諭養成教育における臨床看護実習での学び ○成川美和 (鎌倉女子大学) 他
- P-3 養護教諭養成教育の臨床実習のあり方 (第3報)
- 評価項目および基準の再検討 - ○高橋澄子 (東海学園大学) 他
- P-4 大学生の喫煙に対する意識調査 ○井澤昌子 (名古屋学芸大学) 他
- 口演示説2 (10:05~10:45) 座長 松本良枝 (大阪府立箕面高等学校)
- P-5 保健室登校児童生徒への養護教諭の支援について ○福島きよの (桐生大学) 他
- P-6 現職養護教諭の健康相談活動に関する研究 - 適性感と自信度の有無に焦点をあてて -
○菊川翔子 (北翔大学)
- P-7 高等学校における携帯電話利用と意識の関連
- 北海道札幌市の2校の実態から - ○宮尾美智子 (北翔大学) 他
- P-8 養護教諭の健康相談活動に関する実態と課題
- 小学校教員を対象とした質問紙調査から - ○佐藤倫子 (札幌市立福住小学校) 他
- 口演示説3 (9:20~10:00) 座長 木戸安子 (大阪府教育委員会)
- P-9 高校生のストレス実態と養護教諭に期待する対応 ○後迫貴利子 (熊本県立第二高等学校) 他
- P-10 大学生の顎関節自覚症状に関する調査 ○山田玲子 (北海道教育大学札幌校) 他
- P-11 養護教諭に必要な救急処置を中心とした看護技術ガイドラインの作成 ○石田妙美 (東海学園大学) 他

- P-12 特別支援教育の視点に立つ小学生への怒りのセルフコントロール
 -長期休業中に行った個別の保健指導を通して- ○古角好美(大阪女子短期大学)
- 口演示説4(10:05~10:45).....座長 本田優子(熊本大学)
- P-13 養護教諭の実践力向上のための保健指導に関する研究
 -養護教諭による授業公開の試み- ○築地優子(札幌市立屯田西小学校)
- P-14 現職養護教諭の学習ニーズの現状 ○野本百合子(愛媛県立医療技術大学)他
- P-15 島根県の養護教諭のキャリア・ニーズに対する認識 ○藤本比登美(島根大学医学部看護学科)
- P-16 現職養護教諭が必要と感じている看護に関する知識・技術 ○岩井法子(埼玉大学大学院教育学研究科)他

◇特別講演(11:00~12:00)第1会場.....座長 楠本久美子(四天王寺大学)
 「仏教と教育」 奥田聖應 狛下(四天王寺第111世管長)

◇ランチョンセミナー(12:10~13:00)第1会場.....座長 山崎俊夫(藤田保健衛生大学病院医学部小児科教授)
 「小児の成長障害について」 新島新一(順天堂大学医学部附属練馬病院小児科教授)

◇総会(13:10~14:10)第1会場

◇学会活動報告(14:20~15:00)第1会場.....座長 三木とみ子(女子栄養大学)
 「養護教諭の倫理綱領(試案)に関する報告」

養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会 鎌田尚子(桐生大学)他

◇学会助成研究(15:10~16:00)第1会場.....座長 鈴木裕子(国士舘大学)、鈴木 薫(岡山市立横井小学校)
 「養護教諭が行う効果的な問診に関する研究 -中学校における問診の実施状況の調査結果」

○吉田あや子(西南女学院大学)他

「幼稚園における養護教諭の配置状況とその役割に関する調査研究」

○井澤昌子(名古屋学芸大学)他

◇一般演題(14:20~15:05)第2会場

口演7(14:20~15:05).....座長 松嶋紀子(川崎医療福祉大学)

IV-1 保健室管理と予防接種-HPVワクチン予防接種実施の動向から ○大野泰子(鈴鹿短期大学)他

IV-2 医療従事者志望生徒への喫煙防止教育と職業倫理教育について ○安林幹翁(中部大学)他

IV-3 幼児の咀嚼に関する母親の影響 ○米野吉則(兵庫大学附属加古川幼稚園)他

◇一般演題(14:20~15:20)第3会場

口演8(14:20~15:20).....座長 林田嘉朗(四天王寺大学)

V-1 養護教諭の行なうフィジカルアセスメントに関する研究 ○安原仁美(大阪教育大学附属天王寺中学校)他

V-2 中学校養護教諭における役割曖昧性の検討 ○井上美紀(松江市立忌部小学校)

V-3 特別支援教育における養護教諭の役割 -コーディネーション- ○岡本陽子(甲南女子大学)他

V-4 養護教諭のリーダーシップ行動に関する一考察
 -フォロワー(同僚教員)による評価と養護教諭の自己評価との関連- ○後藤多知子(愛知みずほ大学)

◇一般演題(14:20~15:05)第4会場

口演9(14:20~15:05).....座長 堀内久美子(名古屋学芸大学)

VI-1 養護教諭の専門性を支える学問の構造化試案(3)

-既発表の類似研究から捉えた検討課題-

○後藤ひとみ(愛知教育大学)

VI-2 養護教諭の職務に関する研究-役割認知を通して-

○山本茉莉奈(泉佐野市立長坂小学校)他

VI-3 養護教諭の職能発達に影響を及ぼす要因について

~養護教諭へのインタビュー調査より~

○安藤徹子(坂戸市立千代田小学校)他

学会活動委員会企画のご案内

その1：プレコンgress

「養護教諭の専門領域に関する用語の検討と交流」

三木 とみ子（学会活動担当常任理事）

<開催の趣旨>

本学会編集の「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第1版>」は2007年発刊後3年が経過いたしました。その間、多くの会員がそれぞれの立場において活用されています。しかし、中央教育審議会答申、学校保健安全法・同施行規則の施行、学習指導要領の改訂など、近年の教育の変化等の動向を踏まえ、見直しする必要が生じていることから、全会員対象にアンケート調査を実施いたしました。今学会のプレコンgressは、この調査結果をもとに意見交流し、今後の修正改善のための参考資料とします。多くの会員の参加をお願いいたします。

<当日のプレコンgress開催の概要>

1. 期日：平成22年10月9日（土）10：00～11：30
2. 場所：大阪府教育会館たかつガーデン 第1会場
3. プレコンgressの流れ

- ①趣旨説明（後藤理事長）
- ②調査結果の概要説明（三木学会活動担当常任理事）
- ③時間配分及び進め方の確認
- ④グループによる意見交換
- ⑤各グループごとの検討結果発表

<参考：アンケート結果の自由記述から主な意見紹介>

- 中央教育審議会答申や学校保健安全法の改訂を踏まえて見直しの必要あり。（多数）
 - 学校保健安全法（第8条健康相談）と教育職員免許法施行規則（第9条健康相談活動）についての用語の捉え方
 - その他の用語見直しの意見：養護学、養護活動、養護実践、養護過程、養護実習、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、別室登校、保健指導等の解説等
- *アンケート結果の詳細はプレコンgress当日に紹介します。

その2：学会活動報告

「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」の最終報告

吉田 あや子（学会活動担当理事）

「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会（略称：養護教諭の職業倫理検討委員会）」は、養護教諭

の実践及び養成教育の向上を図るために、2008年度の学会事業の一つとして設置され、2009年度からの新役員体制では、学会活動の中の時限委員会として位置づけられました。

この養護教諭の職業倫理検討委員会では、本年度までの3ヵ年の時限の活動を行うことになっており、初年度は、国内外の専門職・学会等の倫理綱領に関する文献研究を行い、養護教諭の実務研究と実践の視座から養護教諭の倫理綱領の意義・必要性等について検討してきました。第16回学術集会のプレコンgressでは、会員の皆様から多くのご意見等をいただき、その後、試案作成に向けて精力的に検討をすすめてきました。

次年度は、養護教諭の倫理綱領の意義、目的、内容等について養護教諭の視点、養護教諭養成の研究的視点で再検討を重ね、第17回学術集会において発表しました。2010年1月の理事会では、検討委員会委員4名がそれまでの経過内容を報告し、今後の活動について協議した結果、学会員の率直な意見を集約することがさらに重要であるという共通認識を得て、本年度4月～6月にアンケート調査を実施いたしました。会員の皆様には、公務のご多忙の中でご回答を頂き感謝申し上げます。

そのアンケート結果と現在までの検討委員会の活動内容等の3年間のまとめを第18回学術集会（大阪大会）の下記時間に報告いたします。学会員の皆様にはぜひご参加いただき、ご意見を賜りたくご案内を申し上げます。

<学会活動報告の期日と場所>

期日：平成22年10月10日（日）14：20～15：00

場所：大阪府教育会館たかつガーデン 第1会場

私の県の「ここが特色」⑨

東京都学校保健研究会（認定団体） による研修会の開催

関 ひろ子

（世田谷区立桜丘中学主幹・東京学校保健研究会
副会長・東京都中学校学校保健研究会事務局長）

東京都の教員研修は、区・市の研修会の他、東京都教職員研修センターの企画運営による研修会があります。都は、人事考課やライフステージに対応した研修の充実、授業力向上を推進する支援の充実、スペシャリストの育成などに力を入れており、教員は、悉皆研修や各自の課題に応じた研修を受けるようになっています。以下がその概要です。

①必修・職層研修（初任者・新規採用者研修、10年経験者、養護教諭研修、教育管理職研修、主幹研修など）

②教科・教育課題研修（そのほかの研修）（心の教育、保健室経営、健康教育、生活指導、教育研究普及事業（認定団体）による研修など）

③行政職員研修

このうち「教育研究普及事業（認定団体）による研修」は、都が認める任意団体の研究活動を大きく支援しているのが特徴的です。東京学校保健研究会が自主的に開催していた学校保健研修会も平成20年度から「認定研修」として実施することができるようになりました。

東京学校保健研究会は、自主的な研究組織団体で、小・中・高・特別支援学校の校長、副校長、教諭、養護教諭の会員で構成され（会費2,500円）、学校保健・健康教育の充実・推進、会員の資質向上を目的に、平成8年から講演会・授業研究・研究発表を行ってきました。2ヶ月に1回の研修会と夏季研修会を含め年7回の研修会を企画・運営し、大変有意義で充実した研究活動を行っています。今年度は、「保健室における応急処置」「弁当の日から見えてくるもの」「慢性疾患を持つ子どもへの関わり方」「学校事故と法的責任」「若者達の心の闇に迫る」「保健学習」「思春期のメンタルヘルス」「フィジカルアセスメントの実態調査発表」となっています。学生や地方からの参加もあります。

こうした長年の研究活動が都の教育委員会、教職員研修センターから研究認定団体として認められ、都とタイアップして研修会事業を実施することができるようになったのです。

教職員研修センターのホームページに開催通知が載せられ、全都の教員に実施が周知されると共に、参加教員は「研修出張」の取り扱いとなり、研修実績として履歴搭載することにもなりました。今年度も昨年同様7月、10月、1月の3回分の学校保健研修会が「認定研修」として全都の小・中・高・特別支援学校の養護教諭を対象に実施されます。内容詳細については、東京都教職員研修センター及び東京学校保健研究会ホームページをご覧ください。

「私の実践と研究」リレー・レポート⑦

自己の実践研究からグループ研究へ

小山 和栄（岡山市立御南小学校）

振り返ってみると、恩師石原昌江氏の勧めで、本学会の前身である全国養護教諭教育研究会第2回大会

で、研究発表して以来の投稿である。卒後数十年経った今でも、望ましい養護教諭像に向かって力量を身につけるために、目標を持って取り組みたいと日々研鑽中である。

これまで現職養護教諭として、保健室を中心に日常的に行う養護活動に焦点を当て、「保健室来室者のヘルスニーズとその対応」「養護活動における救急処置の考え方・進め方」「養護活動における保健指導」等の内容で、自己の実践をまとめる作業を機会あるごとに行ってきた。

先輩養護教諭とのサークル活動に参加することで、養護教諭の専門性とその役割について、明確なイメージを持って実際の養護活動を行えるようになったり、卒論への協力や実習生の受け入れ等で、養護活動の評価の必要性を認識し、少しずつ現場の実践を理論化することができるようになったりしてきた。

自己の実践の振り返りや実践発表に留まることも多いが、最近はその実践を養護教諭の仲間と共有したいという想いが強くなってきた。そこで、岡山県の養護教諭の実践資料をまとめて、県下の養護教諭の執務の手引きとも言える「学校保健必携～養護教諭マニュアル～」（岡山県学校保健会養護教諭部会）を作成し、県養護部会や市保健部会の研究発表に共同研究者の一人として携わってきた。自己の実践研究がグループ研究へと発展し、それがまた自己の実践研究に反映し、深化してきたように思う。救急処置活動をテーマにした実践例を取り上げる。

①「養護教諭マニュアル～救急処置活動編～」を作成

研究推進委員として、自己の実践研究を基に、主訴聴取→問診・検診・視診→処置→保健指導→事後措置の養護活動の流れに沿って資料をまとめ、他の養護教諭の実践に触れる。

②「養護教諭マニュアル」を活用した研修会を企画

県養護教諭研修会の講師として、県下の救急車要請の実態をまとめ、「養護教諭マニュアル」を参考に、救急処置の考え方や進め方についてグループ演習を行い、再確認する。

③「養護教諭マニュアル」を参考にグループ研究、研究推進委員として、県養護部会で研究発表。地区の病院搬送事例について養護教諭の判断と対応を分析し、自己の救急処置活動を見直す。

本学会では、「養護実践とは、児童生徒等の心身の健康の保持増進を図るために、養護教諭が目的を持って意識的に行う教育活動である。」と規定している。今後も、常に養護教諭の専門性を問いながら、専門職として実践研究と研究実践を繰り返し行っていきたい。

日本養護教諭教育学会2010年度総会告示

理事長 後藤ひとみ

下記の日程で2010年度の総会を開催いたします。欠席される方は、同封の委任状を9月30日（木）必着にてお送りください。

- | | |
|------|---|
| ☆日 時 | 2010年10月10日(日) 13:10~14:10 |
| ☆場 所 | 大阪府教育会館かつガーデン 第1会場 |
| ☆議 題 | 1. 2009年度事業報告
2. 2009年度決算・監査報告
3. 2010年度事業経過報告
4. 2011年度事業計画
5. 2011年度予算審議
6. 研究助成金対象研究の選定
7. 投稿規定の改正
8. 選挙管理委員の選出
9. 第20回学術集会(2012年)開催地
10. その他 |

「学会の活動に関する調査」 の結果について

永田 智恵子 (学会活動担当理事)

本年4月～6月に、会員を対象として日本養護教諭教育学会の活動や事業に関する要望や期待すること等についてアンケート調査を行いました。回答者数が93人と、会員数の15%であったことが大変残念でしたが、以下に結果の概要をお知らせします。

1 調査方法

2010年4月に学会誌第13号第1号を送付した際、返信用封筒と共に「調査用紙」を同封し回答を求めた。

2 調査内容及び調査結果

(1) 学会設立20周年記念事業について

回答数：38人

20周年記念行事への企画をたずねたところ、記念講演及びシンポジウムの開催を希望している傾向がみられた。

テーマについては、「現場とつなげる」、「養成と現職」、「養護教諭の社会的位置付け」、「養護学これから」といったものが挙げられた。

また、他分野の方、外国の類似職の方との交流ができないかという声もあった。

<会員のコメント>

- ・20周年記念事業といえば、月並みかもしれないが、記念講演とか記念シンポジウムの開催ということになる。学会創立時、発足に苦勞された方々をはじめ、関係者の方々の思い出話、当時の目標、抱負等を語ってもらい記録に残すことが最適と思う。なお、学会誌発行を担当された当時の編集者の苦心談、裏話なども残してもらいたい。
- ・本学会がどのような趣旨で発足し、どのように発展してきたのか等これまでの学会の歴史を記録にまとめ残しておくことが大事である。このことを通して今後の方向性も見えてくるのではないか。
- ・養護教諭の職務は常に社会の問題や子ども達を取り巻く状況によって課題が変遷してきた。社会の年代記に合わせて学会のテーマを並べ、この学会の歩みを見てみたいと思う。

(2) 本学会への期待について

回答数：45人

文部科学省による「教員の資質向上方策の抜本的な見直し」が進められており、来年1月には教職員免許法を含む教員の養成や研修にかかわる制度が提案されると言われている。「養護教諭」という職名を冠した全国組織の学術団体として本学会に期待すべきことをたずねたところ、「資質の保証と養成カリキュラムについて」、「研修の場の提供、現職研修の充実」、「教諭と同等の研修制度に向けた提案」などがあげられた。

<会員のコメント>

- ・最新の情報を発信してほしい。
- ・現職養護教諭の参加が増え、学会を通じて養護教諭の資質向上につながると期待したい。
- ・今後も引き続き、養護教諭の専門職としての存在意義や職の特質・重要性を訴えていただきたい。
- ・資質向上策といえば、どうしても学術的な知識内容の高度化、広範囲化が取り上げられやすいが、養護教諭の専門性は知識面よりもむしろ技術面にあると思うので、実技を重視した学科の拡大充実を提唱することが望ましい。特に、養護教諭の役割は「養護診断」にあると思われるので、教員養成が6年制に移行するような時期になれば、それに関する学科（「養護診断学」「養護診断と養護過程」など）を設けることを期待したい。

(3) 学会活動や事業に関する要望について

回答数：18人

今後の活動全般についてたずねたところ、「養成と現職養護教諭の連携した活動を希望」、「養成のあり方の検討」、「ミニ学会や研究集会の企画」、「学術集会（年1回）以外に地域開催の企画」、「現職養護教諭への本学会の存在の周知」、「学会誌査読（研究者の査読の増加を希望）」、「養成課程大学での科目名の統一を希望」などがあげられた。

最後に、御協力いただいた会員の皆様ありがとうございました。「20周年記念行事」及び今後の学会活動の参考にさせていただき、会員の意見を第一に考え運営致したいと考えます。

投稿原稿募集 学会誌第14巻第1号への 投稿期限が迫っています！

鈴木 裕子（学会誌編集担当常任理事）

「日本養護教諭教育学会誌」への投稿は年間通して受け付けていますが、第14巻第1号（2011年3月発刊予定）への掲載を希望される場合は、以下の投稿期限までにお早めにご投稿ください。本会の目的に相応する多数の論文をお待ちしています。

- 投稿資格：本学会の会員に限ります。
- 締め切り：第14巻第1号掲載論文は、**2010年9月30日（木）必着**でご投稿ください。なお第15巻以降は、年2回発刊できるよう準備を進めています。
- 投稿のしかた等につきましては、学会誌第13巻第1号に掲載の投稿規定または学会HPでご確認ください。（投稿規程に沿っていない投稿がしばしば見られますので、ご注意ください。）
- 原稿の送付および問合せは、下記編集委員会事務局あてにお願いします（学会事務局とは異なります）。

<編集委員会事務局>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
国士館大学文学部 鈴木裕子
TEL 03-5451-8161（研究室直通）
e-mail: suzukiyu@kokushikan.ac.jp

事務局より

下村 淳子（事務局長兼任理事）

☆新規会員の増加をめざしましょう

本学会は、学会活動委員会の設置などにより、これまで以上に活動が充実するよう取り組んでいるところです。学会活動を支えるのは会員の方々のご意見と会費による財政基盤です。皆様の身近な方にお声をかけていただき新規会員の増加をはかり、さらなる充実をめざしていきましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。

☆第18回学術集会の学会本部事務手続きについて

第18回学術集会の会期中、学会本部事務手続き用の受付を設けます。年会費のお支払いや既刊学会誌の購入（会期中のみ会員外の方にも販売）、会員情報の変更手続きなどのほか、新規入会者の受付も行っています。この機会にどうぞご利用下さい。

編集後記

初めて編集委員会に参加した時のことです。投稿された論文を、何度も小声で読みながら、一文字一文字食い入るように見ながらの作業が続いていることに大変驚きました。作成した文章をプリントアウトした時点で、「終わった感」が強かった自分を恥じた時間でした。ハーモニーの一号一号がこの学会の足跡であり道標。今回の8ページにも、多くの人の思いやお力が詰まっています。A4サイズになりスペースが広がりましたので、みなさんのご意見を奏でる場も充実していきたいと思います。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

今夏の猛暑・酷暑は、夏休み以降の子どもの健康管理に大きな影響を及ぼしていることでしょうか。どうぞお疲れを出されませんように。では、ひと月後に迫りました大阪大会で！（K）

